

校内授業研究会の成果と課題

成果

- ・総合的な学習の時間と合わせた学習計画・学習活動によって、意欲的に学習へ取り組むことができた。自分がした体験、経験を題材としたことで、書く内容が深まり、国語の資質・能力の向上につながった。
- ・ポスターを見せる相手を細かく設定したことで、ただ書くのではなく、考えながら書いたり積極的に話し合ったりする姿勢が見られた。
- ・いろいろなポスターを比較したことで、よいポスターについて児童自身が考える機会を作ることができた。また、そこで作成したルーブリックは、各活動のはじめとおわりに目標やふりかえりのポイントとして示すことに役立った。

課題

- ・キャッチコピーとはどういうものなのか、意味の共有をもう一度行った方が、よりアイデアやよりよい言葉選びができたのではないかな。
- ・「読み手にどうなってほしいのか。」からキャッチコピーを考えさせると、より目的にそったキャッチコピーができただろう。
- ・班によって進み具合や完成度の差があったので、よい班を取り上げていけば、もっと考えが深まったのではないかな。
- ・1時間のなかで取り組む内容が多く、例えば事前に個人でキャッチコピーを考えてくるなど時間配分の工夫が必要であった。
- ・今後も国語だけでなく、他教科や行事のあとに、キャッチコピーを考えさせる機会を作っていくことで、児童が継続的に今回の学習を生かしていくことができるだろう。

1年間の成果と課題

①日記の成果と課題

○条件を付けた日記やテーマ作文を取り入れたことで、楽しみながら文章を書く経験ができた。各活動を継続的に行った成果として、国語科以外の自分の考えや感想を書く場面でしっかりと書けるようになった児童が多数いる。

○作文用紙の使い方を繰り返し指導したことにより、「はじめ・中・終わり」を意識し、順序だてて構成すること、段落の変え方など、基本的な技能を高めることができた。

△その一方で、家庭学習での取り組みの部分は、差ができてしまった児童もいる。

△読み返す意識が低く、誤字や日本語として誤りのある文章をそのまま提出してしまう児童は多かった。

②ICT 端末活用の成果と課題

○意見文を書くときに ICT 端末を活用したことで、書いているときや推敲活動後の訂正が簡単にでき、児童の意欲が高いまま活動させることができた。

○説得力のある発表にするために、インターネットでデータを収集したり、プレゼンテーションを作成したり、児童が主体的に考えて行動することができた。

△原稿用紙に合わせて作文を書くとき、教師側の設定不備のためかソフトの問題かわからないが、やりづらさがあった。縦書きで書きやすいものを調べていきたい。

③学年の取り組みで特に効果的だったもの

・国語の書く活動では、校内授業研で展開した以外にも、なるべく児童の思いが入りやすい題材を選んで活動させることができた。その結果、活動に意欲的に取り組む姿が多くみられた。

「町じまんをすいせんしょう」→七小じまん 「AI とのくらし」→児童からテーマ募集

・書く活動を国語の時間だけでなく、他の単元や教科、活動に生かすことができた。くりかえし取り組むことで、知識や技能をより深く身につけることができた。特にキャッチコピーづくりは、社会科と理科のまとめの活動、家庭科の作品カードでも行い、よりよい言葉選びができるようになった。

・よい振り返りを紹介したり、書き方を伝えたりしたことで、少しずつ学習の過程がわかるような文章を書くことができるようになった。

・導入の活動から課題設定をして計画を立てたり、前時の学習後の児童の振り返りから次時の学習問題を立てたりして学習を進めていくことができた。国語だけでなく、他教科でも同様の手立てをとることができた。

④今年度の研究について

・総合的な学習の時間と国語との組み合わせによって、児童が自分事として自ら取り組もうとする姿勢を生かして学習を進めることができた。児童の思いに合わせた学習活動を取り入れる大切さを感じられた。次年度は「書く」だけでなく、「話す・聞く」等ともさらに効果的に組み合わせる手立てを考えていきたい。

・カリキュラム・マネジメントによる効果を感じることができたので、他の組み合わせや関連性を考えて、計画的に学習指導を行っていきたい。

・4月当初と比べて、児童たちの書くことに対する抵抗感や書く内容への迷い等が減ったように感じる。

・書いたものを見合ったり推敲し合ったりする機会を多く取り入れたことで、全体として書く力が向上した様子が、いろいろな場面で感じられた。